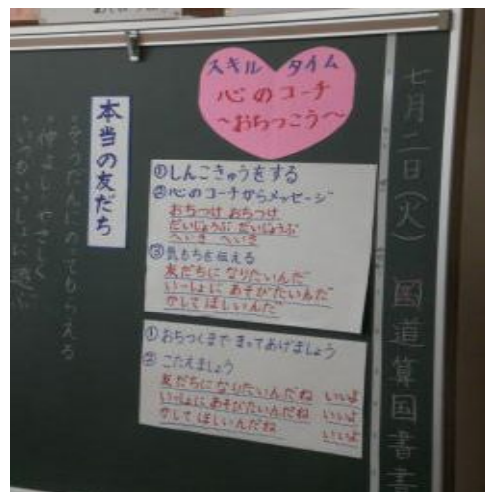


自ら他者と関わり、よりよい人間関係を築く児童の育成 ～ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた道徳の授業を通して～



那覇市立銘苅小学校教諭

大城 真弓

目 次

I	テーマ設定の理由	25
II	研究目標	26
III	研究仮説	26
1	基本仮説	
2	作業仮説	
IV	研究構想図	26
V	研究内容	27
1	自ら他者と関わり，よりよい人間関係を築く	
(1)	自ら他者と関わるとは	
(2)	よりよい人間関係とは	
(3)	よりよい人間関係を築くために	
2	ペアインタビューとは	
3	ソーシャルスキルについて	
(1)	ソーシャルスキルとは	
(2)	ソーシャルスキルの方法	
(3)	ソーシャルスキルの種類	
(4)	ソーシャルスキルの測定	
(5)	ソーシャルスキルを道徳の授業に取り入れるために	
VI	授業実践(第3学年)	30
1	指導計画	
2	授業仮説	
3	本時の展開	
VII	結果と考察	33
1	作業仮説(1)の検証	
	【結果】【考察】	
2	作業仮説の(2)検証	
	【結果】【考察】	
VIII	研究の成果と課題	36
1	成果	
2	課題	

《主な参考文献》

自ら他者と関わり，よりよい人間関係を築く児童の育成 ～ソーシャルスキルトレーニングを取り入れた道徳の授業を通して～

那覇市立銘苅小学校教諭 大城真弓

I テーマ設定の理由

「学習指導要領の解説と展開」道徳編(2008)によると「今日，社会全体のモラルや家庭・地域の教育力の低下，体験の減少など，児童を取り巻く社会環境の変化は，児童の心の成長に大きな影響を与えている。」とある。また，その中で「人間関係を形成する力」が低下していることも挙げられている。文部科学省が実施した「学校教育に関する意識調査」では，調査対象である小2，小5，中2のいずれの学年においても，学校生活で楽しいこと，不満なことのどちらの問いに対しても「友達との関係」が上位を占めた。この結果から，児童の学校生活の充実のためには，友達との関係，つまり人間関係が大きく影響することがわかる。そのような背景を踏まえ，中央教育審議会答申(平成20年1月)では学習指導要領の改善の基本方針に「よりよい人間関係を築く力」の育成を示した。

現行の学習指導要領解説道徳編(以下「道徳編」と略す。)では，「よりよい人間関係を築くには，互いを認め合い，様々な場面での学習活動や生活を通して助け合い，理解し合い，信頼感や友情を育てることが大切である」とされている。お互いを認め合ったり助け合ったりするためには，他者と関わる機会を多く持つことが必要であると考えられる。しかし，児童は，生活環境や家族構成にそれぞれ違いがあり，他者と関わることに得意・不得意がある。そこで，意図的に他者と関わる機会をつくることや他者と関わろうとする手立てをとることが大切だと考える。よりよい人間関係を身に付けるための手立てとしてソーシャルスキルが考えられる。ソーシャルスキルとは，対人関係を営む技術である。人とうまく関われない子は，対人関係を営む技術が未熟であると考えられる。そこで，人間関係に関する基本的な知識と具体的，実践的，且つ効果的な方法を児童に実感させ，自ら他者と関わろうとする意識の向上を図る必要がある。

これまでの実践を振り返ってみると，道徳の時間に教師の説話を工夫してみたり，役割演技を取り入れてみたりと，よりよい人間関係づくりのための取り組みをしてきた。ところが，他者と関わろうとしない児童(ひとりで楽しめる児童)，相手の気持ちを想像できない児童，自分の身勝手な行動をコントロールできない児童がおり，「人間関係づくりがうまくできない」などの課題があげられる。その原因として，望ましい言葉かけや，対人的な問題の解決方法を計画的に指導することが不十分であったことが考えられる。

そこで，今回，道徳の時間で他者と関わる活動やソーシャルスキルトレーニングを計画的に行い，人間関係に関する知識や具体的な技能を身に付けるような支援のあり方を見いだしていきたい。そのためには，道徳の授業の導入や展開の工夫をすることによって，自ら他者と関わろうとし，よりよい人間関係を築く児童の育成につながるであろうと考え，本テーマを設定した。

Ⅱ 研究目標

自ら他者と関わり、よりよい人間関係を築く児童を育成するために、他者と関わる活動やソーシャルスキルトレーニングを取り入れた道徳の授業を研究する。

Ⅲ 研究仮説

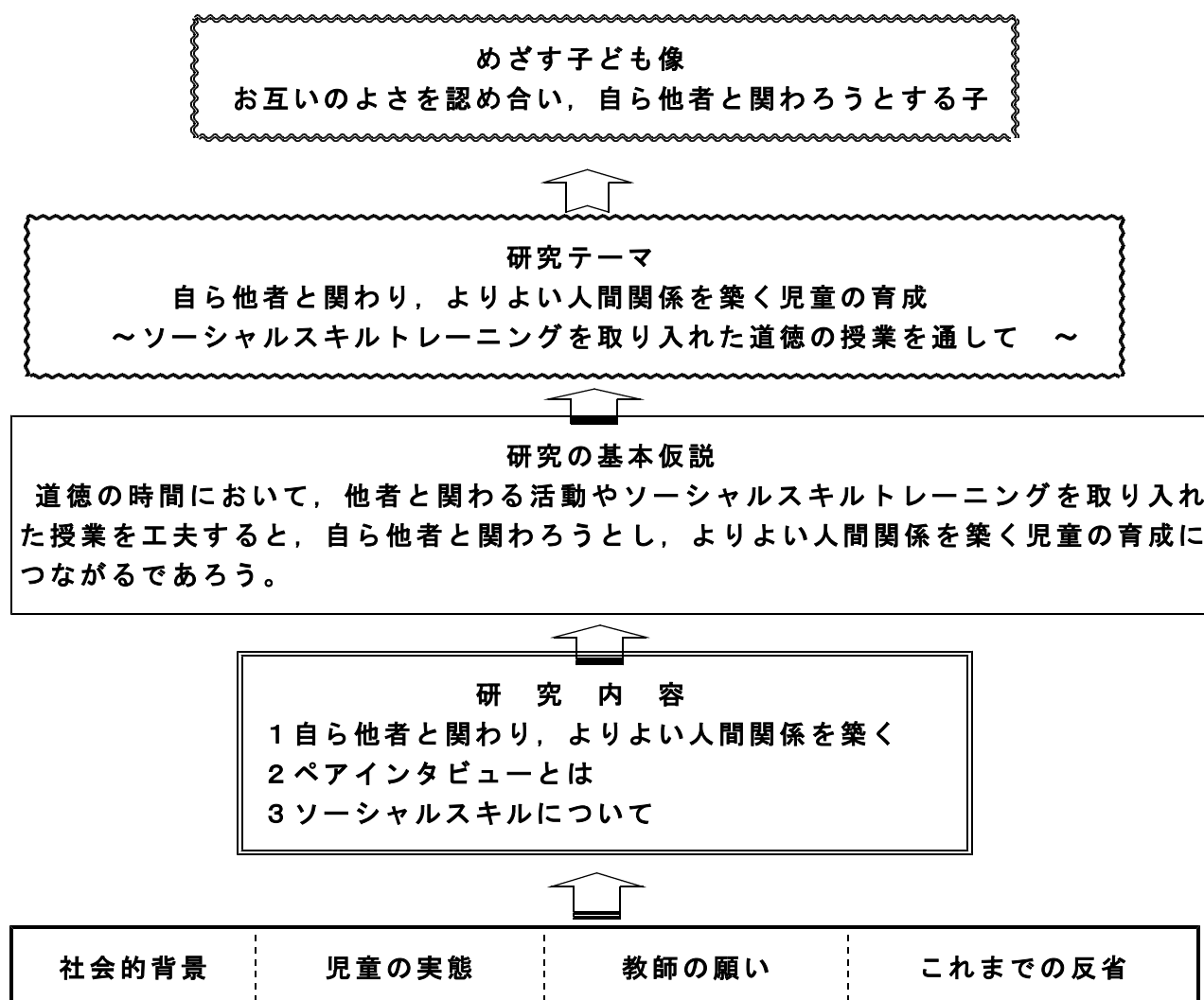
1 基本仮説

道徳の時間において、他者と関わる活動やソーシャルスキルトレーニングを取り入れた授業を工夫すると、自ら他者と関わろうとし、よりよい人間関係を築く児童の育成につながるであろう。

2 作業仮説

- (1) 登場人物の気持ちを想像する場面において、ペアインタビューの方法を取り入れ、他者と関わる体験をすることで、自ら他者と関わるようになるであろう。
- (2) 授業の導入や展開でソーシャルスキルトレーニングを取り入れて授業をすることで、よりよい人間関係を築くことの大切さを感じるようになるであろう。

Ⅳ 研究構想図



V 研究内容

1 自ら他者と関わり、よりよい人間関係を築く

(1) 自ら他者と関わるとは

「小学校学習指導要領：道徳編」の道徳教育の基本方針の中で、道徳的体験を生かした学習や、課題解決に向けて他者と共に考える学習の充実が示されているように他の人とのかかわりを重視することを前提とした道徳教育が求められている。自ら他者と関わるとは、相手の気持ちを推し量りながら発言したり行動したりすることを個人の「他者と関わる」として捉える。その相手の気持ちを推し量る力をつけるためには、相手の立場に立って考えたり、相手の気持ちになって考えたりする活動が大切ではないかと考える。

(2) よりよい人間関係とは

「小学校学習指導要領：特別活動編」では、「望ましい人間関係とは、楽しく豊かな学級生活づくりのために、互いに尊重しよさを認め合えるような人間関係である。」としている。特に低学年では、「仲良く助け合おうとする人間関係」、中学年では「協力し合おうとする人間関係」、高学年では「信頼し支え合おうとする人間関係」としている。また、杉田(2008)は、「気があわない子はいるという前提のもとに指導を行うべきだ。」としているが、集団の目標を達成するためには、気が合わない児童とも大きな問題を起こすことなく、人間関係を調整しながら、うまくやっていくというような人間関係形成能力を体得させる必要があるとしている。

以上のことから、よりよい人間関係とは、他者と関わる活動を通して、お互いが助け合い、協力し合い、信頼し支え合うなかで、周りの人達と関わり合いながら、問題を解決できる関係と捉える。

(3) よりよい人間関係を築くために

よりよい人間関係を築くためには、児童自身がよりよい人間関係を体験することが必要であり、そのよりよい人間関係を体験することで、自己肯定感や自己有能感を高めつつ、他者や集団社会に対する思いやりの心を身に付けながら、自らもよりよい人間関係を築いていけると言われている。

児童の人間関係の体験は、家庭での人間関係から始まり、学級の友達や先生との個々の人間関係、さらに学級集団へと発展していく。

児童がよりよい人間関係を築くためには、家庭であれ、学級であれ、他者との関わりをもつことが重要であり、そのためには、言葉やしぐさで自分の思いを表現し、上手に感情をコントロールして相手にその思いを伝えることが必要となってくる。

そこで、他者と関わる活動としてペアインタビューを取り入れて、他者との関わりを持つことを体験させることで、よりよい人間関係を築くことにつなげていきたい。

2 ペアインタビューとは

ペアインタビューとは、2人1組になってインタビューし合うことである。ペアインタビューは、林(2013)らが提唱しており、道徳の資料を提示した後で、資料中の登場人物になりきって、お互いにインタビューをし合うという方法である。

この方法は資料の理解を促す役割とロールプレイングのウォーミングアップの役割を目的としている。

なお、ロールプレイングとは、「役割演技」と訳され、ある立場にたって演技することで心理療法家モレノの心理劇を祖型とするものである。ロールプレイングは、道德の時間にも取り入れられているが、「恥ずかしい」というような心理的抵抗がおこりやすい。そうした抵抗をなくすために、ロールプレイングの研修会などでは、通常ウォーミングアップに時間をかけるが、そのウォーミングアップに時間をかけすぎると、その後のプログラムに進めなくなってしまう。そこで、道德の資料理解にもなり、時間短縮にもなるペアインタビューをロールプレイングのウォーミングアップとして取り入れるとしている。林(2008)は、ペアインタビューは、演じることに慣れるためのウォーミングアップとして行うが、登場人物になりきるということは、これ自体がすでにロールプレイングになっているとしている。また、道德性の基礎にあるのは、相手の立場に立って考えることだと捉えるならば、ペアインタビューは大変重要だとしている。ペアインタビューは、時間短縮の面でも心理的抵抗をなくす面でも、資料内容の理解に役立つ面でも、さらに相手の立場になれるという面でも活用できると考えられる。

本研究においても、「他者と関わる活動」としてペアインタビューを取り入れることで、資料理解を促すとともに相手の立場になって考え、自ら他者と関わろうとする態度につなげたい。

3 ソーシャルスキルについて

(1) ソーシャルスキルとは

ソーシャルスキルとは、「良好な人間関係をつくり保つための知識と具体的な技術やコツ」のことである。ソーシャルスキルを身に付けることは、「現在の適応問題を改善し、将来起こりうる精神面の問題に対して、予防的な効果がある。」と言われている。人とうまく関われない子は、対人関係を営む技術が未熟であると考えられている。そこで、人間関係に関する基本的な知識と人間関係に関する具体的・且つ効果的な方法を子ども達に伝え、対人的な適応力の向上を図る必要がある。

(2) ソーシャルスキルの方法

ソーシャルスキルは、以下の5つの技法を組み合わせで行われることが多い。この5つは互いに補完的關係にあり、一般的には、次の順序で実施されている。

- ① インストラクション：教えようとするスキルがなぜ必要なのか言葉によって教える。
- ② モデリング：よいモデルや悪いモデルを見せて観察させ、具体的内容を理解させる。
- ③ リハーサル：適切なスキルを、子どもの頭の中や実際の行動で何回も繰り返し改善を加えながら練習させる。
- ④ フィードバック：子どもが実行した行動に対して、ほめたり修正したりする。スキルを実行してみようとする動機を高める機能をはたす。
- ⑤ 定着化(一般化)：教えたスキルが日常場面で実践されるように促す。

(3) ソーシャルスキルの種類

ソーシャルスキルは100を超える数があるが國分(2006)は小学生を対象に学校現場で扱う基本ソーシャルスキルとして12個のスキルを提案している。表1にまとめた12のソーシャルスキルは具体的で行動が伴っていて実行し易いものから順に並べてあるということで、初級/中級/上級の境目は厳密ではなく、全体としてソーシャルスキルの程度が深化するように並べてあるとしている。

表1 小学生を対象に学校で扱う基本ソーシャルスキルの種類

初級	①あいさつ ②自己紹介 ③上手な聴き方 ④質問する
中級	⑤仲間の誘い方 ⑥仲間の入り方 ⑦あたたかい言葉かけ ⑧気持ちをわかって働きかける
上級	⑨やさしい頼み方 ⑩上手な断り方 ⑪自分を大切にする ⑫トラブルの解決策を考える

(4) ソーシャルスキルの測定

國分(2006)は、ソーシャルスキルを教えるには、子どものソーシャルスキルの程度を把握しておく必要があるとしている。また、ソーシャルスキルの指導やトレーニングのあとで有効性を確認するためにもソーシャルスキルの測定は必要だと述べている。そこで今回は埼玉県教育委員会が作成した「人間関係プログラム」の効果を参考にして4つの尺度因子13項目のアンケートを作成したのが表2である。

表2 ソーシャルスキルについてのアンケート

解決 スキ ルの	1 私はけんかをした友達と、上手に仲直りをする事ができる。 2 私は、クラスのだれとでも、笑顔であいさつをすることができます。 3 私は、友達が話しているところに、気軽に仲間へ入れてもらうことができる。
言語 スキ ルの	4 私は、何か失敗したときにすぐにあやまることができる。 5 私は、自分のことばかりを話をしないで、友達の話をじっくりと聞くことができます。 6 私は、自分の気持ちや考えなどをすなおに言える。 7 私は、友達のたのみでもいやなことは「いやです」と言えます。
信 他 頼 者	8 私の友達は、私の考えや意見をよく聞いてくれます。 9 私の友達は、私が困ったときに相談にのってくれると思います。
感 統 情 制	10 私は、かっとなると、そのことがすぐに顔や態度に表れます。 11 私は、友達と意見が合わないとき、言い合いをしたくなります。 12 私は、ちょっとした言い合いでも声が大きくなっていきます。 13 私は、かっとなって物をこわしたくることがあります。

埼玉県教育委員会作成の効果測定を一部抜粋して作成

(5) ソーシャルスキルを道徳の授業に取り入れるために

ソーシャルスキルトレーニング(以下SSTとする)を道徳教育として取り入れるためには、道徳資料の結びつきを考慮する必要があると考え、価値項目と合うようにソーシャルスキルをくんだのが表3である。道徳資料と関連して指導することで、計画的にSSTを行うことができるのではないかと考える。

今回はSSTを効果的に取り入れることが可能だと考えられる、内容項目1と2についてまとめた。

表 3 ソーシャルスキルを取り入れた年間指導計画(第3学年)

	項 目	内 容 別 資 料 名	表 1 に示したスキルの種類
1 に主 関と すし るて こ自 と分 自 身	1-(1) 基本的な生 活習慣	ろばを売りに行く親子 金色のさかな バトミントンクラブ	③上手な聴き方 ⑫トラブルの解決策を考える ⑩上手なことわり方
	1-(2) 勤勉・努力	二十とびチャンピオン 医学の道へ進みたいー野口英世	⑪がんばった自分をほめよう
	1-(3) 勇気	キウイフルーツのたなの下で	⑫注意のしかた 勇気の自己会話
	1-(4) 正直 誠実・明朗	まどガラスと魚 色紙かして	⑫あやまろう ④質問する ⑨やさしい頼み方
	1-(5) 個性伸長	リフティング 100 回	⑥仲間の入り方
2 か主 かと わし りて に他 関の す人 ると この と	2-(1) 礼儀	言葉のまほう 手紙をかくね	⑦あたたかい言葉 ⑧友達ふやそう
	2-(2) 親切	コメット君をりっぱな盲導犬に おじいさんの顔 拾ったりんご	⑦あたたかい言葉 ⑪自分をたいせつにする
	2-(3) 友情	友だちや ないた赤おに さとしの心	⑤仲間のさそい方 ⑧気持ちをわかって働きかける 心のコーチ「落ち着け落ち着け」
	2-(4) 尊敬・感謝	おばあさんときれいな歩道 あの日のこと	①だれにでもあいさつできる ⑦あたたかい言葉かけ

VI 授業実践(第3学年)

1 指導計画(4時間)

第1時	主題名 すなおな心で 資料名 「色紙かして」 1-(4)
ねらい：過ちを素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活しようとする心情を育てる 目標スキル：④質問する(人の物をさわるときは、聞いてからにしよう) スキルタイム(人の物をさわる時は聞 てからにしよう) ※他の人の物をさわる時のスキル 「ちょっと見てもいい？」 「かっこいいね さわってもいい」 「あけてもいい？」	
第2時	主題名 自分の考えで行動 資料名 「バドミントンクラブ」 1-(1)
ねらい：自分でできることは自分でやり、よく考えて行動し、節度のある生活をしようとする態度を養う。 目標スキル：⑩上手な断り方 スキルタイム(上手な断り方) ※上手な断り方のスキル ①あやまる ②ことわる理由を言う	

		③はっきりことわる ④かわりの意見をいう	
第3時	主題名 友達と助け合って友情を深める 資料名「さとしの心」 2-(3)		
ねらい：互いに理解し、信頼し、助け合って友情を深めようとする心情を育てる。 目標スキル：⑦温かい言葉かけ			
	スキルタイム(あたたかい言葉かけ)	※温かい言葉かけのスキル (その人の様子+感情語) ・手伝ってくれてありがとう ・剣玉が上手ですごだね ・ずっと持っていて大丈夫？	
第4時	主題名 本当の友達 資料名「ないた赤おに」 2-(3)		
本時：本時の展開を参照			

2 授業仮説

- (1) 登場人物の気持ちを想像する場面で、ペアインタビューの方法を取り入れ、赤おにや青おにの気持ちを想像したり、他者と関わる体験をすることにより、自ら他者と関わることの良さに気付くであろう。
- (2) 振り返りの場においてスキルトレーニングを取り入れた授業を工夫することで、怒りのおさめ方や落ち着こうとしている他者との接し方を知り、よりよい人間関係を築く事の大切さを感じるようになるであろう。

3 本時の展開

	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点
導入 3分	1 本当の友達とはどんな友達でしょう。	・ そうだんできる人 ・ いっしょにあそんでくれる人 ・ 困ったときに助けてくれる人 ・ 気のあう人	・ お互いの考えている友達について聞き合いながら、価値への方向づけを図る。
展開	2 「ないた赤おに」を読んで話し合う。		・ 価値への導入を図り、友情について考えるように導く
	赤おにと青おにの友情について考えよう。 ○赤おには、どんな気持ちから立て札をたてたのでしょうか。 ○どうして赤おには大声を出したり、看板をこわしたのですか。	・ 人間となかよくなりた ・ 友達ができると楽しいだろうな ・ 気持ちが通じなかったから ・ 人間に信じてもらえなかった ・ いやだった	・ 赤おにの素直な気持ちに共感させるようにしたい。 ・ 大声で村人は驚いて逃げたことに気付かせたい。
	仮説1：ペアインタビュー(青おにの気持ちを想像する) ① 青おにさん、「ぼ	・ 赤おにのねがいをかなえてあげ	★青おにのとった行動は、赤おに

(4) 本時の評価

よりよい友達関係について、考えることができたか。

VII 結果と考察

1 作業仮説(1)の検証

登場人物の気持ちを想像する場面において、ペアインタビューの方法を取り入れ、他者と関わる体験をすることで、自ら他者と関わるようになるであろう。

【結果】

(1) ペアインタビューの有効性について

本研究の検証授業の4時間は、毎
間ペアインタビューを取り入れた。

検証授業後に児童にアンケートを
施し、ペアインタビューについて聞
てみた。図1より「登場人物の気持
ちを想像しやすい」「ややしやすい」と
答えた児童が全体の約75%となっ
た。また、図2より「一人で考えるより
ペアインタビューをしながら考えた方
がいい」という問いに対して「あては
まる」と「ややあてはまる」と答えた
児童が全体の約77%となった。表4の
児童の感想から、登場人物の気持ちを
想像する場面でのペアインタビューで
「お姉さんの気持ちになってみた」と
か、「赤おにくんの気持ちがよくわか
った。」また、「お話しの中の人の気持
ちがわかるように感じた」等、登場人
物の気持ちになって考えようとしてい
る様子が伺える。

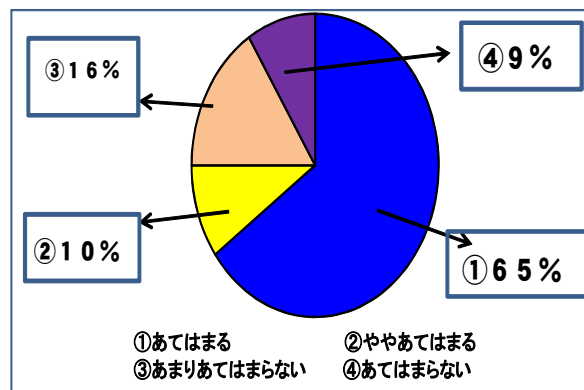


図1 ペアインタビューをした方が登場人物の気持ちを想像しやすい

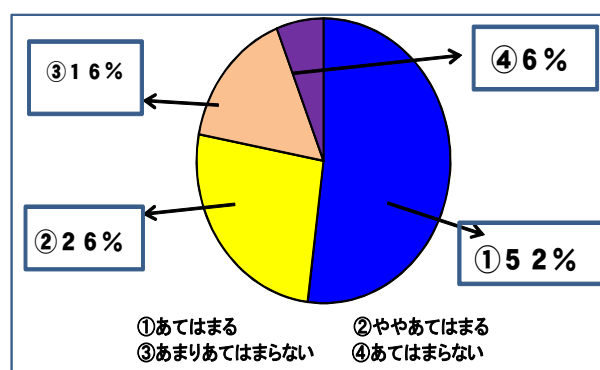


図2 一人で考えるより、ペアインタビューをしながら考えた方がいい

表4 登場人物の気持ちを想像することに関する児童の感想

児童の感想
・ ペアインタビューで「色紙をかしてもらうにはどうすればいいですか？」と質問され、お姉さんのきもちになって「正直に言ってほしい」といいました。
・ 赤おにくんの気持ちがよくわかりました。
・ 青おにや赤おにの気持ちを知れたので、お話しの中の人の気持ちがわかるように感じました。
・ 本当の友達がする事や優しさがわかった気がします。
・ 赤おに君のようにいらいらしたことがあるので、赤おに君の気持ちがよくわかりました。

(2) 他者との関わりについて

指導計画の4時間の授業のペアインタビューのペアは、意図的に毎回違う児童と組んで貰いいろいろな友達と関わりをもてるようにした。最初は「えー」という声もあったが、実際にペアインタビューをしての感想を書いて貰ったところ、表5のような意欲的な感想が多かった。

ペアインタビューを「また、いろいろな人とやってみたい」という意見や友達とのやりとりの中で仲良くなっていく感じを体験できたという感想があった。また、ペアインタビューで優しく言ってくれたことがうれしいと表現している児童がいて、また次もやりたいという気持ちをもっている児童が多かった。

感想からは、もう嫌だ」「やりたくない」等のマイナスの意見は見られなかった。普段挙手して発表することが殆どなく、意思表示の苦手な児童もペアインタビューには参加していた。

また、一回目は質問するまでに時間がかかっていた児童も、回を重ねるごとにペアインタビューに慣れ、スムーズに質問したり、答えたりできるようになってきた。

【考察】

図1よりペアインタビューで登場人物の気持ちを想像し易いと答えた児童がクラスの7割を超えることや表5の児童の感想の「お話しの中の人の気持ちがわかるように感じた」など、登場人物の気持ちになっている様子から、登場人物の気持ちを想像する場面においてペアインタビューを取り入れるのは有効であると考えられる。また、児童のペアインタビューの様子を見ていると時間があまったペアは、「反対の気持ちも考えてみたいから私にもインタビューしてみて」と交代でインタビュアーをしているペアもあり、積極的に関わる様子が見られた。また、表6の感想で、「青おにくんみたいな友だちをどんどんつくっていきたい」という感想もあり、ペアインタビューをすることで道徳的価値に迫ることができると考えられる。

活動の様子や感想から、ペアインタビューをすることを嫌がったり、否定的な意見は見られず、また次回もペアインタビューをしたいという意見が多いことから、自ら他者と関わろうとしていると捉えることができる。以上のことより仮説1が検証できたと考える。

表5 友達との関わりについての感想

- ・ ペアインタビューをしてみてこんな感じで人と仲良くなれるのかなと思った。
- ・ 青おにくんみたいな友だちをどんどんつくっていききたいなあとおもいました。
- ・ 次もいろんな人とやってみたいです。
- ・ ○○君がとってもやさしい言葉で言ってくれたのでうれしかったです。



図3 ペアインタビューの様子

2 作業仮説(2)の検証

授業の導入や展開でスキルトレーニングを取り入れて授業をすることで、よりよい人間関係を築くことの大切さを感じるようになるであろう。

【結果】

(1) スキルトレーニングの効果

今回、4時間の授業の前後でアンケートを実施し、児童の状態を測定した結果が、図4である。

4つの項目ともに一回目(授業前)より二回目(授業後)は、スキルが身についてきたことが分かる。授業後も掲示してあるスキルを見てトレーニングしたスキルを使おうとする様子が見られた。表6は、対人的適応がやや苦手とするA児の、スキルトレーニングについての毎時間の感想である。自分の行動を振り返る感想やこれからの行動の目標を見つけている様子が伺える。

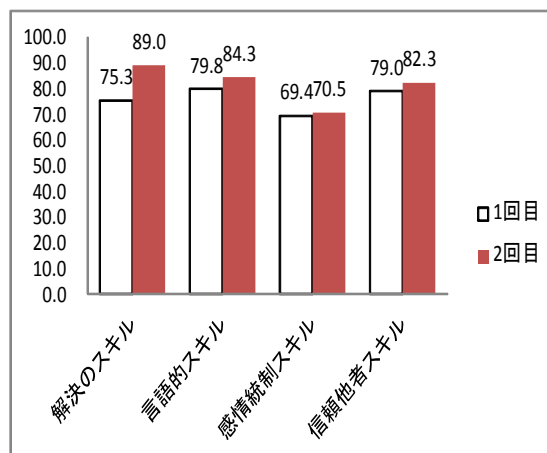


図4 検証授業前後の児童のアンケート結果

表6 スキルタイムに対するA児の感想

第1時	人の物は聞いてからかきりの方が心が気持ちよくなりました。
第2時	スキルタイムで上手にことわる方法がわかりました。ぼくは乗馬クラブに入りたいので、同じようにさそわれたら上手にことわりたいです。
第3時	少しやさしい言葉を使えるようになりました。また、本や物を人に貸せるようになりました。
第4時	よく友達とけんかするので、しんきゅうをしてから自分の言いたいことを言いたいと思います。

(2) よりよい人間関係を築くことについて

図5は、クラスの状態を測る「アセス」の結果である。検証授業前は、2名の児童が対人的適応で支援を要する境界線上にいた。検証授業後、支援を要する児童2名は若干ではあるが対人的適応があがった。クラス全体としては1回目より上がった児童と下がった児童が半々の状態であるが、全員が対人的適応が良好の範囲にいるという結果となっている。

表7は、スキルトレーニングを通して友達との関わり方に気付いている感想である。

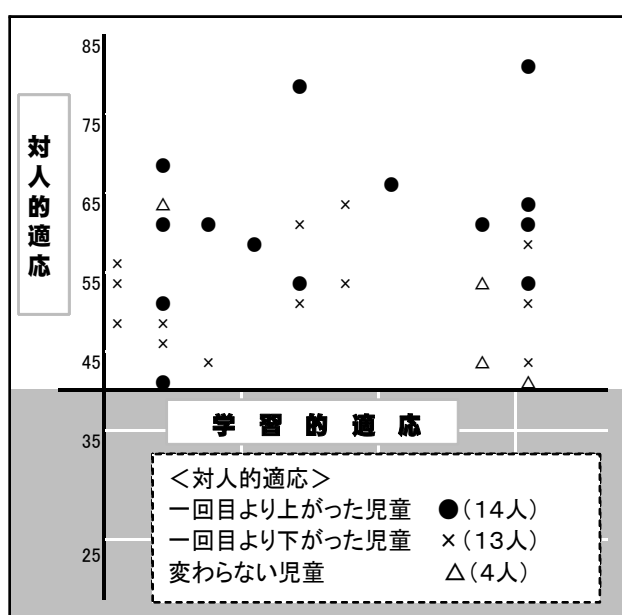


図5 アセスの結果

表 7 スキルタイムを通して友達との関わり方に関する児童の感想

児 童 の 感 想
・スキルタイムで「あたたかい言葉かけ」で友達に話すと友達もにっこり笑うということがわかった。これからもたくさん「あたたかい言葉かけ」をしたいです。 ・これまで嫌だと思ってもがまんしていることがあったので、スキルタイムでやったように理由や代わりの意見をいいながら気持ちを伝えようと思います。 ・明日から、落ち着いて気持ちを伝えたり、友達が落ち着くまで待ってあげたりしようと思います。

【考察】

図 4 より検証授業の前後の比較で、スキルトレーニングをすることでスキルが、身についてきていることがわかる。検証授業前のアンケートでは、「友達のを借りる時は、ちゃんと聞いてから借りることができる」と答えた児童はクラスの97%と高かったが、実際は黙って借りたり触ったりしてのトラブルが多い状況があった。スキルトレーニング後の感想から、「言ってから触るようにしないといけないとわかった」とか「ちゃんと言葉でつたえたらいいよと優しくかしてもらえることがわかった」等の感想があった。児童は「しているつもり」「言っているつもり」の状況もあるので実際にトレーニングで体験することで自分の行動に目を向けられるようになったように感じた。また、普段トラブルも多く対人的適応に要支援のA児であるが、表6の感想から自分の行動を振り返る感想やこれからの行動の目標を見つけている様子が伺える。このことより、よりよい人間関係を築くことの大切さを感じる方法としてスキルトレーニングの効果が見られた。図5より、対人関係適応の上がった児童と下がった児童が大体同じ人数になっている。五月の頃に比べて友人との関わりも増え、より積極的に関わるようになってきたからではないかと考える。表7の感想からは、スキルトレーニングをすることで友達との関わり方や気持ちの伝え方がわかったという前向きな感想が多く、スキルトレーニングを継続して行うことで、全体的に対人的適応も上がるのではないかと考える。また、「これからもたくさんあたたかい言葉かけをしたい」という感想もあり、スキルトレーニングをすることで、道徳的価値に気付くようになってきていると考えられる。以上のことより仮説(2)は有効であったと言える。

Ⅷ 研究の成果と課題

1 成果

- (1)登場人物になりきってインタビューし合うペアインタビューの方法を取り入れ、他者と関わる体験をすることで、自ら他者と関わろうという姿が見られた。
- (2)スキルトレーニングを取り入れて授業をすることで、他者とのよりよい接し方がわかり、道徳的価値に気付くようになってきた。

2 課題

- (1)ペアインタビューやスキルトレーニングをする際の場面設定の工夫が必要。
- (2)スキルトレーニングを取り入れた年間指導計画の作成。

《主な参考文献》

- | | | | |
|----------------------|-------------|-------|------|
| 『ソーシャルスキル教育で子どもが変わる』 | 國分康孝監修 | 図書文化 | 2006 |
| 『小学校学習指導要領解説 道徳編』 | 文部科学省 | 東洋館出版 | 2008 |
| 『モラルスキルトレーニングプログラム』 | 林泰成編 | | 2008 |
| 『アセスの使い方・活かし方』 | 栗原慎二・井上弥 編著 | 本の森出版 | 2011 |